

「百聞は一見にしかず」は、ちょっと待って！

📖 五感で感じる

本物を見て、その大きさや形、手触りなどを五感で感じることは、何よりも大切です。水族館でシャチの大きさに驚いたり、動物園でキリンの背の高さにびっくりしたり、雪の冷たさを感じたり、絵や写真で見るとは、まったく違うということを体験させてあげてください。

これぐらいの体験なら「百聞は一見にしかず」でよいのですが、旅行に行ったときなどは、行き当たりばったりでは、子どもは何を見ていいのかわかりません。

親は、本物を体験させたつもりでも、帰宅したら肝心の珍しい景色や動物などを忘れてしまっていることもしばしばです。子どもは、予備知識のないまま見ても、わからないままになることがあるのです。せっかく遠出して本物を見せてあげるようなときは、事前にいっしょに調べたり、話題にしながら、楽しみにさせてあげましょう。

📖 出かける前には予習をしておく

幼児なら、動物園や水族館へ行く前に、動物や魚の絵本の読み聞かせをしておいてあげるぐらいでよいでしょう。電車が好きなら、電車の図鑑や路線図などをついしょに見て、「今度の旅行では、この電車に乗るんだよ」と事前に教えておきます。

すると、当日はただポーツと眺めるだけでなく、「図鑑で見るよりもピカピカでかっこいいね」と、感動は倍増して、何をしたのかしっかりと記憶にとどめることができます。

小学生なら、地図を広げていっしょに見たり、海外旅行だったら地球儀を指さしながら、「日本を飛び立って、地球をぐるりと半周して、やっとこの国にたどりつくのよ」と説明すると世界観が広がります。

戦国武将が好きなら、お城などの史跡について、城の構造や史跡には何があったのか、そこでどんなできごとがあったのかなどを調べていくとよいですね。お城に着いたら、「お城からは遠くまで見えるね」など、本物の空間にいるからこそできる、想像力のさらなる飛躍を、いっしょに楽しんでください。